

## 令和3（2021）年度 部局マネジメント方針

### 上下水道局下水道部長

よしむら やすあき  
吉村 靖明



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取り組み方針）

下水道部は、災害に強く安心できる暮らしを持続して提供できるよう「豪雨対策」や「老朽化対策」を進めつつ、厳しい財政状況の中でも健全な経営を確保できるよう全力で取り組んでまいります。

本市の下水道は、使った水や雨水の排水を主な目的として昭和24年から進めてまいりました。結果、今では市内のほとんどで下水道が使用できるようになりました。

現在は、快適な生活環境を維持していくため、適切な維持管理と老朽化していく施設のリニューアルに重点を置いた事業運営を図っています。しかしながら、人口減少や環境に配慮した生活スタイルが普及したことで節水化が進み、さらにコロナ禍の影響もあって財源となる下水道使用料収入は減少の一途をたどっています。「東大阪市下水道事業経営戦略」を軸に、厳しい財政状況下においても安全・安心で持続的な下水道サービスを提供することで、SDGsとの一体的な取り組み（【目標11】包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する）を進めてまいります。

また、昨今気象変動による豪雨災害へのリスクが高まっています。整備されている施設の規模を超える豪雨が毎年全国のどこかで発生している状況であり、その対策は急務となっています。昨年度には、あらゆる関係者が連携して豪雨対策に取り組む「流域治水プロジェクト」が検討されました。下水道事業もその対策の一つとして、大雨時の排水能力を高めるため新たなトンネルを整備する「増補管事業」を位置付けています。現在施工中の「新岸田堂幹線」の一日でも早い完成をめざし、気候変動の影響を軽減させるSDGsとの一体的な取り組み（【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる）を進めてまいります。